

## 観光振興対策・地域公共交通対策等特別委員会での質疑(抜粋)



①外国人観光客の誘客について。外国語版の県観光ホームページの記事の更新日が最新のもので2022年3月と表示されている。更新頻度及びアクセス数は？

外国語版ホームページは毎月約5～8万件程度のアクセス数がある。コンテンツは随時更新しており、直近では11月にセキュリティ対策強化で更新した。ご指摘の箇所は新着情報ではないがトップ画面にあり、今後よりよい見せ方も考えていく。



②あをによし観光アプリについて。自治体によってはアプリでスタンプラリーを実施して周遊を促したり、行動データを集積しているが現状の活用状況は。新しく開発を進めている観光アプリとの住み分けはどうする考えか。

年に2回社寺の特別な開帳を掲載している祈りの回廊というパンフレットを発行し、そのアプリでスタンプラリーは実施しているが行動データ等はとっていない。現行アプリは行きたいところを検索してもらい、新しいWebアプリは趣味嗜好にあった観光施設、宿泊施設などをおすすめするものです。



■英語版のインスタグラム等SNSと併せてインターネットでの観光広報を強化して頂きたい、アプリがいくつもあると使い勝手が悪いので、統合など利便性も向上させてほしいと要望

## 文教くらし常任委員会での質疑(抜粋)



①(仮称)奈良県子どもまなか未来戦略について。取り組みはいくつか記載があるが、大きな方向性も肝要である。目標設定についての考え方を問う。

今月中に公表が予定されているこども大綱も勘案する必要がある。大綱において子ども、若者、子育ての当事者に対してどう目標設定がされるかを注視し、県の子ども・子育て政策を総合的に推進できるようにしていく。



②高校給食について。共働き世帯が増えてきていることは周知の事実である。保護者負担の軽減や栄養バランスのとれた食事を提供するといった観点や公立高校の魅力づくりの一環として、食堂のない高校等で市町村の給食センターの協力も仰ぎながら高校給食を実施していくべきだと考えるがどうか。

他府県で魅力づくりの一環で実施している事例があることは承知しているが、本県としては進学教育重点校、推進校などを進めることで魅力づくりに取り組んでいる。



■①について。令和5年3月策定の奈良っ子はぐくみアクションプランの目標設定や達成指標の中には、これで課題解決できているかの確認になるのか疑問を感じるものや、従前より少し数値を改善させただけの数値目標もある。高い目標を掲げ、課題解決に向かって積極的に取り組んでいくという姿勢を持っていただきたいと述べ、他に県立中高一貫校の授業時数や高校受験の際に配慮が必要な生徒への対応とその後のサポートについても質疑をしました。